

令和8年1月 市長定例記者会見

2026年1月5日(月)

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 それでは定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 新年明けましておめでとうございます。記者の皆様におかれましても、輝かしい新年を迎えられたことと思います。お喜びを申し上げたいと思います。

今日、仕事始めだったんですけれども、朝一番に敦賀水産卸売市場のほうに行って、初市に出てまいりました。その後、市役所のほうで仕事始め式がありまして、それから新春市民交流会ということで、萬象のほうで開催されたところに行ってきましたんですけれども、初市と、それから新春市民交流会で、市場の雰囲気だったりとか、あるいは新春交流会の会場の雰囲気というのがすごく明るくて、皆さん結構活気にあふれているなという感じがしたのがすごく印象的でした。市役所の仕事始めが一番カチッとしていて、何か真面目な感じだったんですけれども、初市にしろ新春市民交流会にしろ、すごく楽しい雰囲気があったので、皆さん笑顔も多かったですし、今年一年こういうスタートを切れて、こういう一年であつたらいいなと思った初日です。

来年のまた新春交流会とか初市で、同じように明るい雰囲気で迎えられるような、今年一年頑張らなければいけないなとも思った初日でした。

うま年というのは、私はやはりいろんなところで新年の挨拶をするので、うま年ってどんな年だろうと調べるんですけれども、飛躍、上昇の年とか、あるいは馬というのは元気なイメージらしくて、エネルギーに満ちた年というふうに言われていますので、敦賀市のほうもそういうような年に、力強く前進するような年にしたいと思っておりますので、また職員と一丸となって取り組んでいこうと思っておりますので、今年一年、どうぞよろしくお願いいたします。

皆さんにとりましても、すばらしい一年になることを心からお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いします。

私からは以上です。

【広報広聴課長】 それでは、本日は発表項目はございませんので、フリーの質問対応に移りたいと思います。初めに幹事社さんから、よろしくお願いいたします。

【記者】 早速といいますか、知事選挙の告示が今週ということで迫っていますけれども、昨日、県の市長会さんのほうでも山田氏への推薦を決められたということで、推薦状の交付も福井市内のほうでありましたけれども、米澤市長もその一員ですので、改めてお聞きするのもあれですけれども、改めて、米澤市長の知事選のスタンスといいますか、どの候補を支持、支援されるのか、あとその理由も含めて、お考えをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 私としては、県政をしっかりと進めていただける方に知事になっていただきたいという思いがあります。正直申し上げて、少し公務とは違う、どちらかというと私にとっては政務に当たる部分になるかと思うんですけれども、今3人の方が立候補を表明されているんですけれども、私がよく存じ上げているのは山田立候補予定者、正直だけなんですけれども、山田さんとは、かれこれ10年ぐらいのお付き合いで、もちろん副知事をやられていたということで、行政マンとしての手腕というのは皆さんご承知のとおりだと思いますが、私の当時の副知事でいらっしゃった頃のイメージだったりとか、あるいは越前市長になられてからのイメージでいいますと、県庁の職員さんの枠をちょっと超えるような改革マインドの旺盛な方というのが私のイメージなんです。

たしか山田さんがまだ福井県で副部長という企画幹というんでしたっけね、企画幹の頃に書かれた本が、共著、2人で書かれた本があって、「行政ビジネス」という本なんですけれども、そこに書いてあることなんかでも、ちょっと行政マンとしては型破りな感じで、本当に大胆なことをやってきた方。それもアイデアがあり、実行力もある方というのが私のイメージですね。

どちらかというと、今、言われ方としてはすごく手堅いようなイメージで言われることが多いような気がするんですけれども、経験とか何かそういう言われ方をするような気がするんですけど、私のイメージというのは、そういう方だなというイメージがあって、今、福井県のいろんな行政課題がありますけれども、タイミングとしては本当に山田さんがそういう手腕を発揮されるタイミングではないかなと思っておりますし、私個人としては山田さんを応援していきたいなというところで、今回の市長会で、事前に市長会として推薦を出すに当たっては各市長に意向をみんなで共有してどうすると決めたんですけれども、そのときでも私は山田さんを応援すると。市長会として推薦を出すということは、私としてはぜひにということで話し合いをさせていただいたという、そういう経緯ですね。

なので今回の選挙戦でも、私個人としてはそういうスタンスで臨みたいなと思っています

す。

【記者】 県と歩調を合わせてといいますか、協力してやっているインフラ整備をはじめ、敦賀港の活性化だったり、道路もありますし、あと金ヶ崎エリアの再整備とか、県と協調してというか連携してやる施策が多々あるかと思うんですけれども、まだこれから選挙が始まるところですけれども、どういった論戦というんですかね、候補者には政策を期待したいというようなお考えでしょうか。

【市長】 そうですね。これはずっと県政の課題でもあったと思うんですけれども、嶺南における県政をどのように進めていくのかというのは、ずっと課題の一つだったと思いますし、そこは杉本県政のときにもすごく力を入れていただいていたという私の印象があるんですけれども、それは引き続きやっていただきたいなと思います。

その中で、敦賀市においても、県といろいろ絡みがある課題というのがあって、一つは道路の話であったりとか、あるいは金ヶ崎の話であったりとかいうことがいろいろありますので、そういうことをこれからもぎっくばらんにといろいろと相談していけるといいなと思っています。

そういうことも含めて、嶺南あるいは我々にとっては敦賀というところが、今回の知事選挙のところで少しでも論戦の中に入ってくると、我々としてもいろんな判断がしやすいのかなと思っています。

ぜひマスコミの方にも取り上げていただきたいなと思っているというところです。

【記者】 少し別のお話で、ふげんでトリチウムを含む水が漏れた件で、改めて受け止めと、今後事業者に求めていくことをお伺いできればと思います。

【市長】 これもいつも申し上げているんですけれども、安全に作業を進めていただきたいなというところであって、特に今、敦賀では、ふげん、もんじゅ、それから敦賀1号機が廃炉作業をしているわけですけれども、廃炉作業においても放射性物質を取り扱うことになりますし、放射線管理というのは引き続きやっていかなければいけないということが今回よくよく分かる事象であったのではないかなと思います。

廃炉作業においても、これまでの運転時あるいは定検のときと変わらない気持ちで作業を進めていただきたいなということを今回つくづく思いましたし、そのように原子力機構さん、それから文部科学省さんにも我々のほうからも申し入れをしたところです。

【広報広聴課長】 それでは、各社様よりお受けしたいと思います。

【記者】 知事選の関連なんですけれども、特に福井県の知事さんの場合は、原子力発電

所がたくさんあるということで、足元、直近でも関西電力の乾式貯蔵の設置の事前了解願が出ていたりとか、課題が山積していたかと思います。

そういう事前了解願に対しての応答をどうするかとか、知事の権限というのも大きいものなのかなと思うんですけれども、市長として、まず選挙で約1カ月知事が不在になるということと、その後も少し聞こえてきている話では、そういう関電の乾式貯蔵の話であっても、また関電さんが一から説明して、そこからまた検討をし直さないといけないのかなとかというような懸念の声だとか、もろもろ遅れていくのではないかという心配だったり、もう遅れるだろうという諦めの声みたいなものも聞こえてくるんですけれども、市長、全原協の会長も務めておられますけれども、そういった懸念だとか、そういったことに対してのお考え、どのように考えていらっしゃるか教えていただけませんかでしょうか。

【市長】 原子力に対する各候補のスタンスというのは、まだ基本的なスタンスしか明らかになっていないような気がするんですね。

保守系の候補と言われているお二方は、どちらかという今までの県政を引き継ぐような、県政の方針を引き継ぐようなことで発言をされていますし、もうお一方、共産党から出ていらっしゃる方は、もともとのご主張の中で原子力には反対だと言われているんですけれども、例えば、原子力を推進すると、これまでの県政を引き継ぐという方が知事になられた場合なんですけれども、一応今、関西電力と県との約束みたいな形でロードマップがあって、それについてどうするということについては、まだ候補者は明確に言われていないような気もするんですね。これはこれからの論戦の中ではっきりしていくということを目指したいなと思いますし、あれは私から見ると、県とそれから関西電力さんの約束ということになりますので、あれをしっかりと進めていただくような形で県としても進めるべきではないかと思っていますというところです。

新しく知事になられる方のお考えということももちろんありますし、それはそのときの判断ということもあるんでしょうけれども、先ほどスケジュールの話がありましたけれども、基本的には今のロードマップに乗っかるような形でやっていくのがいいのではないかなというように私は印象を持っています。

【記者】 まず観光のことについてお伺いしたいんですけれども、今年の3月で新幹線開業2周年を迎えるということで、アクションプログラムなどを進めていますけれども、まちづくりへの意気込みみたいなところを一つお伺いしたいです。

【市長】 今日新春市民交流会のところで話をしている方とも、ちょうどその話題にな

ったんですけれども、やはり開業直後の人の多さよりは少し落ち着いてきたと。なんだけれども、これを何とか維持していきたいよねと。今日も例えば駅周辺だったりとかそういうところは人が増えてきたよねというようなポジティブなご挨拶を皆さんされていたと思うんですけれども、その状況をできるだけ維持していきたいなということを思っている中で、今まだそういう意味では、まちづくりも道半ばと思っています。

今日、市民交流会のほうでも挨拶で申し上げたんですけれども、門前神楽通りですね。氣比神宮、本当に人が増えて、参拝者の人が増えていると聞いておりますので、そういった方が町のほうに出ていただけるような、そういう動線も考えたまちづくりもしていきたいなと思いますし、先ほどもちょっと話題になった金ヶ崎のほうも、公園整備ということで既に始めていますので、そういったことも含めて、新幹線前の新幹線開業のタイミングを目指したまちづくりというのは、そこまでで一段落はついているんですけれども、今後、新幹線効果を永続的に最大化していくというところのまちづくり、そういうことを意識したまちづくりというのがこれからまた改めてスタートしていくんだらうなということを思っています。

今日、幾つかのプロジェクト的な事業というのも挨拶の中では紹介させてもらったんですけれども、そういうことを市民の皆さんの意見も聞きながら進めていけたらなと思っています。

【記者】 アクションプログラムが今年2年目に入るところですけど、1年目の取組の振り返りと、今どれぐらい進捗しているのかということと、あと、これから取り組まなければいけないと考えている課題みたいなところを教えてください。

【市長】 それも私、一回ちゃんと整理しなければいけないなと思っているんですけれども、ハード、ソフト両方あって、各項目によって結構進捗状況が違うというのがあるんですね。大体の印象としては、どれも順調に進んでいると思っています。ただ、これから何て言うんですかね、中だるみとかしてもいけないので、しっかりと進捗管理をしながら進めていけたらなと思っています。

だから今は順調に来ていますよと。これからもこのペースで、あそこ書いてあることをしっかりとやっていけるように、進捗管理も含めて。

あと、市だけの話じゃないですよ。いろんな民間も含めて参加していただくようなプログラムになっていますので、そういったところもみんなを盛り上げながらやっていきたいなと思っています。

【記者】 観光誘客の取組みとして、今、課題で取り組まなければいけないみたいに市長が思われていて、今年1年取組たいなみたいなことって何かありますでしょうか。

【市長】 今、開業してから2年ぐらい、もうすぐ2年たつんですけれども、だんだん分かってきたことがあって、よく観光、特にインバウンドでゴールデンルートみたいな言い方があるんですけれども、日本海側のゴールデンルートというのが大阪、京都と金沢を結ぶような、そういうルートの真ん中にちょうど敦賀があって、今インバウンド系のお客さん、結構敦賀で宿泊しているというパターンがあるんですね。もちろん日本のお客様でもそういう例はあると思うんですけれども、こういう人たちに、結構そういう人たちは滞在期間も長いらしいんですけれども、敦賀のまちを1日、2日でも回っていただけるような。実際、結構最近、敦賀のまちの中で外国の方は見るようになったねという話はよく聞くんなんですけれども、こういうのは新幹線開業前とかにはあまり私そこまで、そういう意味で敦賀に来られる方が結構いるというのはイメージしてなかったんですけれども、そういう方にも敦賀のまちを歩いてもらえるような取組だったりというのは、私たちの新しく見つけた課題かなと思っていますので、面白い課題でもあるので、そういうところをやっていったらなと思っています。

【記者】 金ヶ崎の整備についてなんですけれども、事業者が民間整備エリアのところの計画を物価高などの理由で発表できていないというところがあるんですけれども、こちらに対して、市長から事業者に対して何か発表の期限を設けるであったりとか、出ないときにどのようになっているんだみたいな、そういうふうに見るような態度を取ることというのはあるのでしょうか。

【市長】 今どうなっているのかというような報告みたいなことは適宜受けている状況で、全然没交渉で、お互いにほったらかしているというではないんですよ。ただ、その中で聞いているのが、やはり物価高騰とかをしている中で、事業計画というのを何回も練り直していただいていると聞いておりますので、これもこれまでの記者会見とか、あるいは議会のほうでも申し上げましたけれども、つくった後に、それこそ30年とか50年とかしっかりと経営していただくことが必要な施設になってきますので、そこについては私、慎重に民間としての経営判断をしていただければいいのかなと思っていますというところで、ある程度のこれだけ時間がかかったことは許容、今までできていますし、ただ、どうなんですかね、民間会社としても、あまりずるずると計画、計画とやっても、そこに人もかかっているわけで、そこにコストもかかっているわけなので、民間としてもどこ

かで判断するタイミングがもうそろそろ来てもおかしくないのではないかなと思っていますし、そこはそれこそ県も絡むことなので、事業者さん、それから県、それから我々でまた適宜相談しながら、なるべく早く、我々としても早いに越したことはないので、なるべく早く結論が出せたらなと思っています。

【記者】 続いて、原子力産業についても伺いたいんですけど、昨年クリアランスの企業が市内で立ち上がって、原発は今稼働していない状況ですけど、原子力産業ということで少し光が見えたような一年だったかなと思っているんですけども、今年一年、原子力政策、市長としてどのように進めていきたいかというのがあったらお願いします。

【市長】 廃炉については、クリアランス準備会社の大きい意味としては、やはり地元企業にメリットがあるような形での体制を組んでいただくことがもともとの構想の中に入っていますので、そういうものがちゃんと実現、具現化していくというところを楽しみにしているというところです。

どうしても廃炉作業というのは、例えば30年くらいかけてやっていくということであると、一年の仕事量というのがそれほど確保できない可能性もあると言われていきますので、それであるならば利益率の高い形で地元企業に参画していただくということが大事だと思っていますので、そういうものが形として見えてくるといいなと思っています。

廃炉についてはそういうことで、ほかいろいろトピックスというのが敦賀においてもあるんですけども、例えば敦2の話であったりとか、あるいは敦3・4の話であったりとか、あるいは新試験研究炉の話というのがあるんですけども、それはそれぞれ状況については皆さんご承知のとおりですので、私としては、それこそ安全を一番大事にしていただいて、それがないと、例えば進めたいということであっても市民感情としてついていかないところがありますので、そこはしっかりと確保して、しかもそれをちゃんと我々にも情報を見せていただいて、そうしたことを踏まえて、いろんな各事業者さんの事業に取り組んでいただけたらなと思っています。

【記者】 全原協の会長の立場から一言伺いたいんですけど、先ほどもありましたけど、事前了解であったりとか、ロードマップなどの着実な推進というところも課題として県内にある中で、今年の原子力行政というところをどのような一年にしていかなければいけないと考えているか、教えてください。

【市長】 福井県内でいいますと、稼働している炉というのは日本で一番数としては多いですし、その中ではいわゆる高経年化してきているものもあるという中で、やはり安全に

についてはしっかりと確保しながらやっていただかなければいけないと思っています。

今度、全国的なところで言えば、再稼働というのが、これまで焦点が当たっていたところについては幾つか進んできているところがあるというところで、これについては、やはり再稼働するに当たって、特に広域避難を考えた安全対策であったりとか、それについてのインフラ整備であったりとか、そういうところをしっかりとやらなければいけないですよねということを各首長さんが言われていて、そういうところも含めて安全対策はもちろんやるんだけど、それで事故が起こらなくなるというようにすると、私いつも言いますけど安全神話にまた戻ってしまうので、いざという時のこともしっかり考えながら再稼働については進めていただくということかなと思っています。

あと、できれば今年進展が見られるといいなと思っているのは、最終処分のところですね。あそこが決まってこない、前もお話がありましたとおり、これから出てくる使用済燃料というのはどうかという話はもちろんあるんですけども、今もう既にある使用済燃料をどうするのかという話は避けては通れない話ですので、ここについての進展が見られる一年であればいいなというのは、原子力を抱える福井県、それから全原協の立場として強く思うところです。

【記者】 最後に、新しい知事は原子力行政のかじ取り役を担う存在だと思うんですけど、どういうリーダーを求めるとするか、どういう対応を求めるとするか、ありましたらよろしくをお願いします。

【市長】 基本的には今までの県のスタンス、県としての原子力の三原則もありますし、そのスタンスを踏襲していただくといいのかなということが一つと、それから、そうはいながら、時代に合ったとか、知事個人の考え方というのはまだ示されていない中ですので、本当にこれからマスコミの皆さんもいろんなことで候補者の方に聞く機会があると思うんですけども、そういうところで各候補者の方がどういう考えを持っているのかということは、ぜひぜひこれから明らかにしていってほしいなと思います。

私としては、基本的には福井県のスタンス、特に原子力の三原則ですね。あれをベースとしてやっていただくといいのかなと思っています。

【記者】 西町の綱引き、400年続く伝統行事というのが今年中止ということが発表されているんですけども、その件に関して市長として受け止めというのと、来年の再開とかに向けて、市として何かバックアップとか今後考えているのかどうか、その辺をお聞かせいただければと思います。

【市長】 本当に残念で、私も2年前に大黒さんをさせていただいたんですけれども、やはりそのときの祭りの雰囲気だったりとか、あと、あれは少し変わったお祭りというか、すごくユニークなお祭りで、本当にいい雰囲気の祭りだったので、あれがなくなるというのは本当に寂しいなと思っています。

ぜひぜひ復活してほしいなと思っているんですけれども、単にもう既に資金だけの問題ではもちろんなくて、どういう担い手でやるのかとか、そういうところが課題になってきますし、これというのがこれから5年、10年、ずっとこの課題というのは抱え続けることになると思うので、一回一年かけてしっかりと、どういう体制でやっていくのかというのが一番大きい課題になってくるんですけれども、それについて当事者の人たちに協議もしてもらって、市としては、いろんな意味でのバックアップというのはしっかりやっていくつもりで、今回もできたら市のバックアップをする中で今年もやれないかなということも相談したんですけれども、なかなか体制が整わなかったということもありますので、市としては、こういうバックアップをしますから皆さんどうですかみたいなことも含めて、この一年協議して、来年はできたら復活できたらいいなと思っています。

【記者】 途中で出てきたキーワードからの関連で、一つ、先ほど乾式貯蔵のお話がちょっと出まして、市長のほうから、これまでのロードマップに則ってというようなお話がありましたけれども、メディアの光の当て方にも問題があるのかなと思うんですが、乾式の事前了解ということが一番具体的に迫っているテーマではあるんですが、これって県外搬出計画全体の問題なので、その中で捉えなければいけないのかなと思うのと、正直あれが出てきたとき結構状況が変わっている中で、知事も変わって、ここもそのままで、一部だけでいいのかというところはあると思うんですね。

例えば、六ヶ所に関して、まだ延期はされていないものの、説明の期限がどんどん延びているという状況で、果たして大丈夫なのかというのはますます強まっていると。一方で、中間貯蔵施設の共同利用という可能性も見えてきたりとか、ちょっと状況が変わっている中で、果たしてこれをそのまま行くべきなのか。

これは敦賀市にはあまり関係ないんですけれども、県内の原子力政策のテーマということで、ご意見を伺えますか。

【市長】 さっき私、質問に答える中で、知事の原子力に対するスタンスの中で、時代に合ったと言いかけてやめたんですけれども、恐らく時点修正的なところというのは、もし生じてきたらそれはやるべきなんだろうなと。ただ、今のロードマップのことで言います

と、乾式貯蔵のところがもしもの理由で遅れたとしても、総量は変わらないということで、ロードマップ的にはそこまで影響ないのかなと。あれは搬出しやすいように乾式貯蔵だという理屈なので、影響はゼロではないと思うんですけども。

ただ、そうは言っても、外部要因というか、むつの話だったりとか六ヶ所の話で、ひょっとすると時点修正的なことをやる必要はあるのかもしれないというところで、そこはここ数年の話かもしれないけれども、今後、中長期にわたってそういうこともあるかもしれないなとさっき少し思ったので、時代に合ったというのを言いかけたんですけども、それは実際、新しい知事が行政として対応していくことになるのかなと思っていますというところですね。

【記者】 ではそういう意味では、現状はロードマップに則って行くという方向性の中で、直近の具体的なものと言えは乾式ということで、それで新しい知事が判断されることと。

【市長】 そうだと思いますね。実際、六ヶ所というのは今のところ遅れるとは言っていないので、遅れる前提で話すのは申し訳ないからそうはしないんですけども、ほかいろんなことは考えられるので、そのときの時点修正的なものは適宜、新しい知事のご判断でやればいいのではないかなと。

さっきそういうことも思いながら、そこを言うのはちょっと置いておいて、基本スタンスとしては、さっきの例えば三原則だったりとかそういうところに則ってやってもらえばいいのではないですかとお答えはしたんですけども。

今のようなそれぞれの事象に関しては、事象というか、それぞれの項目に関しては、そのときそのときの知事の判断だったりとかいうことは入ってくる可能性はあるのかなとは思いますが。

【記者】 全然違う話ですけども、最近の新聞の中で見かけて目にとまったのが、地方で男性職員の寿退社が目立ち始めていると。この背景にあるのが、育休に対する理解が地方であまり進んでなくて、なので2人で育てていくことを考えると、地方を脱出して東京に行くんだというような流れが結構増えているんだというお話だったんですけど、個人的に思い入れもあるので、敦賀市内で現状どのようなになっているのかというような認識というのは、市長の中でどうなのでしょう。

【市長】 市役所でいうと、結構育休の取得率というのはここ数年でどんどん上がっているんですね。今もうほぼ100%近いですかね。9割方、取っていますよね。

民間がどうかまでは私も把握、正直していないんですけども、ちょっと考えたときに、

若い人がやはり地方に留まらない、あるいは一回学生として出て行って帰りたいというところの要素の中に、やはり地方の窮屈さみたいなところがもしあるとするのであれば、それは多分時間はかかるんですけども、改善をしていったほうがいいなと思っていますし、僕ら、男女共同参画というところは行政の一つのテーマなので、そのメッセージはしっかり出していきたいなと思っています。

その中にあるのは、やはり今でも敦賀でも残っているかもしれない男尊女卑的な考え方。少し前だったら、お盆とかお正月に帰ってくると、男の人はドンと座っていて、女性がかいがいしく何か料理を運んできてみたい、そういうのを若い人が見ていて、これでいいのかなと思うとか、あるいは今の男性の育休、男の人がそういうのを取るのみたいな雰囲気だったりとか、そういうところは直していったほうがいいと思いますし、男女共同参画社会を推進するという中で、我々のメッセージの中では、そういうところもしっかりと出していきたいなと思います。

しばらく前、去年ぐらいは、県のほうで結構そういうのを活発に、特にアンコンシャスバイアスに関してやられていたと思うんですけども、ああいう取組というのを我々も何らかの形でやっていくのが長期的に見ていいのかなという気はしています。

【記者】 これは完全に国政マターなんですけれども、アメリカのベネズエラに対する、何と言っていいのか分かりませんが、対応ということで、現時点では日本への影響というのは直接的な影響というのは小さいですけども、国際秩序に対する影響を考えると、決して対岸の火事ではないですし、中国やロシアに対しても力による現状変更がありなんだと思われる、攻撃目標になり得る地域ですし、これからどうなるのか。少なくともアメリカが攻撃して、うまくいったというのを容認していいような状況だとはとても思えないんですけども、国政に求めていくことですね。外交的な点とか、市政ではないですけども、市長の立場から、あればお聞かせください。

【市長】 あれがあつてすぐに、息子から、これはどういうことなんだと、どう解釈したらいいんだみたいなことがLINEで来たんですけども、私、返事で、よう分からんと書いたんですよ。というのが、正直、国際法上、それからアメリカの法制上、あれがどういう位置づけになるのかというのが私もよく分からないし、息子に返事をするためにちらちらと調べてみたんですけど、結構両論あつて、正直よく分からないですね。

あれを例えばウクライナのことになぞらえていいのか、それから今の中国と台湾の関係になぞらえていいのかというところは、正直、今の私には判断がつかないので、これ以上

のことは申し上げにくいかなと思っています。

【記者】 市長も1期目の今年度というか今年というか、最終年といいますか最終年度と
いいますかですけれども、仕上げの年として、この一年間、最終年度として、どういった
具体的な成果というんですか、特に注力したい施策、取組等、どういった成果を出したい
かという点、お考えをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 これからの一年でどういう成果を出したいかということですね。

これも今日の挨拶でいろいろ申し上げたんですけれども、いろいろ準備してきたプロジ
ェクト的な事業というのが今年から来年にかけて着工したりとか、あるいは完成を見たり
とか、そういうところが出てくる一年になってくると思っていますので、そうしたことを
着実に進めていきたいなということが一つと、あと、これは来年一年で済まないなとは思
っているんですけれども、大きい課題だと思っていることが、ずっといいことばかり言っ
てきたんですけれども、課題だと思っているのがやはり財政のほうなんです。

財政の体質改善だと2年前に言って始めたんですけれども、そのときにはそこまであま
り想定していなかった人件費とか、あるいは物価の高騰で、支出はどんどん増えていく。
だけれども入ってくるほうはそんなに増えていないという、ここのアンバランスが拡大し
ていて、2年前か3年前かに今から行財政の体質改善しますと言って、いろんな意味で、
ここで2億円削減しましたとか言っていたのが全然帳消しになるぐらい人件費とかが上が
ってきているということで、これから行政改革、財政改革というところを、2年前とかに
やるよと言ったときも結構長期、10年ぐらいかかるよということで議会にも説明をした
んですけれども、それを一回それこそ時点修正的に考えていかないといけないのかな。

それはもちろん去年もある程度現状把握して、今後こうなるなという予測は立てたん
ですけれども、そこでちゃんと財政的な基盤をしっかりと持って、今言ったような大きいプロ
ジェクトをやっていくというところの見通しというのをしっかりと持つ一年にしたいなとも
思っているというところです。

やりたいことをやろうと思ったら、やはりそれだけのリソース、人的にも、それから財
政的にもリソースが要るので、そのところをしっかりと見極める一年にしたいなと思っ
ています。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

それでは、本日の記者会見は以上になります。

最後に連絡事項を申し上げます。次の定例記者会見ですけれども、2月と3月を合わせ

まして2月18日水曜日の午後1時30分開始を予定しております。日程が通常と異なりますので、ご注意をお願い申し上げます。正式なご案内は、追って文書でご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

ありがとうございました。

【市長】　ありがとうございました。今年一年よろしくお願いいたします。

午後2時13分終了